



## 出会い

---

2000年生まれの彼とは、1本の電話から出会うこととなった。

「知人が里親探しをしている仔猫を  
その人が旅行の間だけ預かっているから  
迎えてあげて欲しい」という内容だった。

電話では断りきれず、まだ数ヶ月前に2匹目の猫を迎えたばかりで  
迎える事になるとは塵ほども思わずに会いに行ったのだ。



そのときの彼は、まだまだ小さくて  
離乳食も済んでいい頃だと思ふ大きさなのに  
ミルクを持ってくると自分の前足で器用に哺乳瓶を持って  
仰向けで飲むという仕草を見せてくれた。  
彼には同胎子と思われる子がいたが  
この愛嬌のある仕草に3時間ばかり考えて連れ帰ってきた。

## 名前

---

生まれ月を想像して『水無月』と名付けた。

名前負けしているなんて声は聞きなれているけれど

水無月は、たぶん……気にしているはずだ。

その大きさから（一番重かったときは11kgだった）

誰ともなく「にゃじら」なんて愛称を付けられているけれど

水無月は「にゃじら」と呼ばれると視線を外す。



## チャトラ

---

チャトラというのは雄のことが多い。  
三毛やサビほどの確率ではないというだけで  
チャトラには雄が多く生まれる。  
その例に漏れず、水無月は雄だから  
だから多くの猫と暮らすには彼は気を使うのだろう。  
来客があると犬よりも先に出迎えるのが水無月だ。  
番犬ならぬ番猫.....しかし懐いてしまうため追い払う事はない。



## 嫌わないで

---

水無月は人に嫌われる事を極度に恐れる。

他の猫の相手をしていると背中を向けて傍に居る。

肩に乗るときも、軽く前足を置いて気付くまで待っている。

「乗るの？」

その一言が欲しくて水無月は待っている。

決して爪を立てずに体重に反比例して軽いジャンプで乗り切る。

声をかけると期待と不安の入り混じった顔を向ける。

猫の表情は解りにくいというけれど

水無月は解り易い方だと思う.....むろん犬ほどではないけれども。



## 不動の三番目

---

水無月は愛嬌のある仕草と人懐こさで  
実は神経質で、臆病者なのだを知る人は少ない。  
猫に派閥や序列はないという人も居るけれども  
完全室内飼育で20匹近く存在したら序列くらいは生まれる。  
数が少なかった頃は古参の猫と雄同志で  
じゃれあう事が多かったのに  
序列など感じさせないほど水無月は2番目に居たのに  
非常識な雄猫の行動が嫌いで  
その白い大きな猫が嫌いで.....  
水無月は3番目になった。  
滅多にじゃれあうこともなくなって  
彼の背中を見る日が増えていった。



## 11年目

---

水無月は元気な状態でやってきた。  
だから年に一度のワクチン注射も受けさせてきた。  
けれど最近は目が腫れ易くて  
耳も薬に頼る事が多くなった。  
じっと見つめ続ける視線の先には  
水無月を過剰に恐れる三毛猫、飛鳥がいる。



団地のゴミ捨て場で保護されたという過去を持つ水無月  
奈良県明日香村の山の中で生まれた飛鳥  
二匹は人が大好きな猫同志なのに  
甘える事が大好きな猫同志なのに  
飛鳥と水無月は、初対面のときから犬猿の仲だ。

(＊ 飛鳥とは過去に出した「二十分の一の猫」で撮影している猫である)



## ニオイ

---

水無月は意外にも神経質なのだ。

例えば、知らない人のニオイは犬より嗅いでいる時間が長い。

来客が猫嫌いでなければ水無月は同席する。

そうして相手が年配の男性であろうが

妙齢の女子であろうが

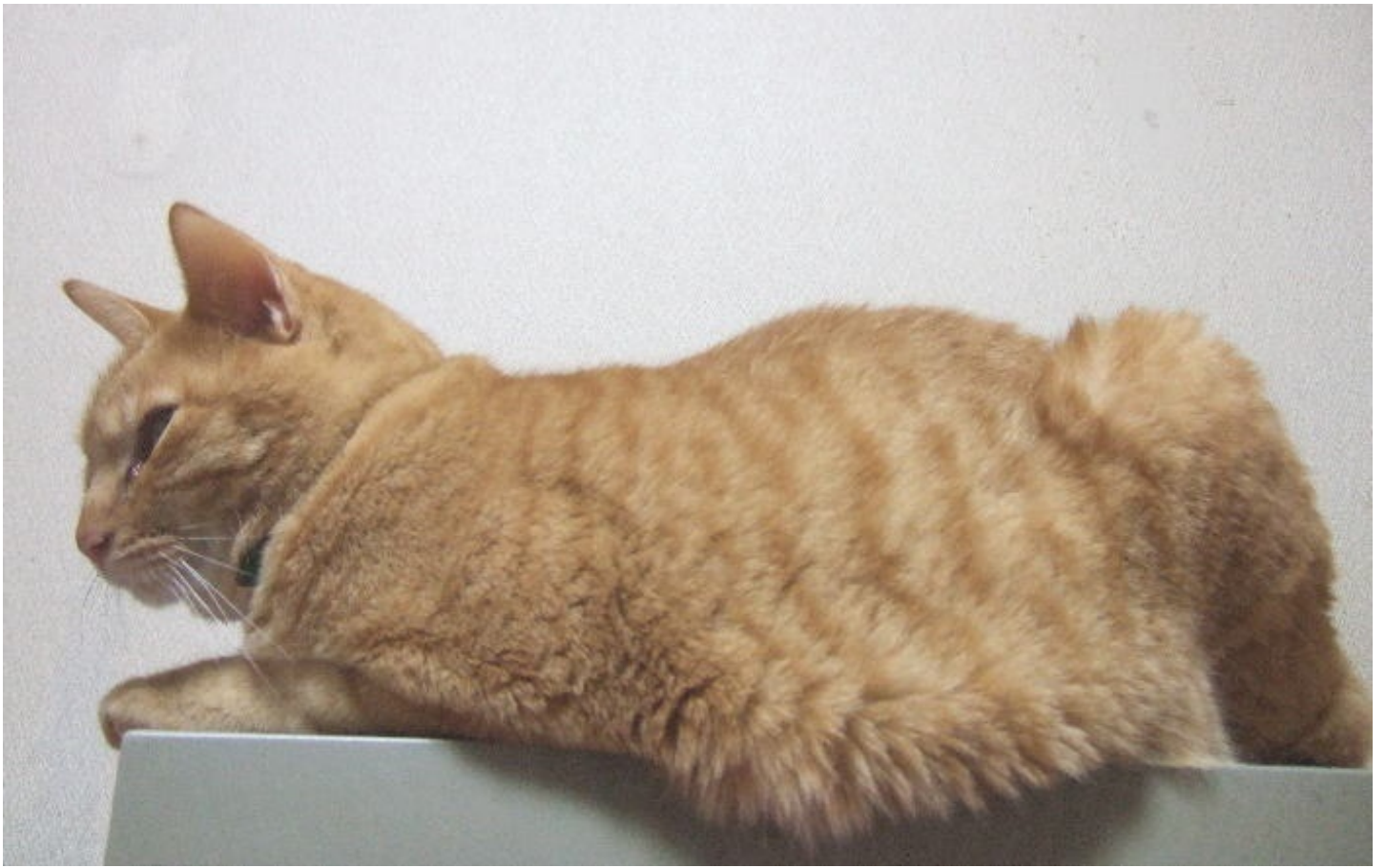
じっと見つめて、それに応えるような笑顔を向けられると

うなじのニオイまで嗅いで回る……

何か納得して、彼なりに解ろうとしているのだろう。

女の子の悲鳴に身を引く悲しそうな瞳に気付かなければ

彼は無神経で大胆な猫に他ならない。



## カメラは嫌い

---

人懐こくて、傍に居る事が大好きだから撮影は出来るけれど

水無月ほどカメラというものを嫌う猫は少ない。

あまり動く子ではないから撮影し易いのだけれど.....

何枚も撮り続けていると

こうして横を向いて、目を閉じてしまう。

彼は世界を閉じてしまう。

水無月は人が大好きで、嫌われる事をしないだけで

本当に猫らしい、自分勝手すぎるところを隠しているだけなのだ。



## かぎ尾

---

若い頃は何かにつっ掛けてしまって  
驚くくらい声をあげて暴れまわった「かぎ尾」  
くるくるに渦巻き状になった水無月の尾  
窓の外の小鳥や、飛鳥を見つけると  
このかぎ尾を「ブンブン」とふるのだ。



この画像は、飛鳥が遊んでいるのを見ているところだ。

人は大好きだけど、触られると毛繕いする。

決して自分自身以外のニオイをまとわない。

だけど太りすぎた身体は彼の思うように動けない。

やっとなんかでも余った皮膚の皺が邪魔をする。

だから……

水無月はコーミングが大好きだ。

誰かと一緒じゃない、コームを持つ人と1対1になれる時間

だけど仕上がりに撫でると、こうして顔を洗う……





2000年初夏生まれ

初回の健康診断で生まれ月を想像して

6月だろうといわれたから「水無月（みなづき）」

愛嬌はあるけれど名前のような古風な格好良さはない。

多くの人が、その大きさと人懐こさから「にゃじら」と呼ぶ。

水無月が成猫になりきってから

知らされたことだったのだが

彼ら兄弟は、保護した人が既に飼育するつもりで

情が湧いていたのだし、旅行から帰ってきたら

1匹しか居ないという状態に大いにもめたのだという。

仲介した人の勘違いが招いた出会いは

どちらの家においても多数の猫と暮らす羽目になるという

水無月にとっては有りがたくない事実だけだった。

大人になってから兄弟に会わせてみたが

特にケンカをするわけでもなく、特に寄り添うわけでもなく

一通りの挨拶を済ませると互いに離れていった。

保護主さん宅に残る子も水無月と同じ性格なのだと笑っていた。

人が大好きな彼らはケンカなどしない。

互いの飼い主の腕の中に居られることを優先して

もう記憶にない雄猫との遭遇を無難にやり過ごした。

不動の3番目と書いた水無月だが

2012年の秋、カリシウイルスの後遺症と共に複数の異常を起こして倒れた。

他の猫からは離して、私の寝室に移動させた。

ほぼ24時間体制で様子を見ているが、治療はしていないので

延命処置と本人の生きる意志だけで持っている。

現在、体重は4kgもない。

そこまでなっても、どこか気を使う子で

そこまでなって、やっと少しの我が侘を覚えた水無月である。

桜が満開になるまで

夏の日差しが眩しい日まで

水無月は傍にいてくれるのだろうか。

口内炎（カリシウイルスの後遺症・発症はしていない）のせいで

水さえ飲むのが辛くなって、食べ物は少ししか取れなくなった。

毎日見ているのだから、黄疸が出ていることも

おそらく肝臓と腎臓の両方が、弱ってしまっていることも

検査なんかしなくても解っている。

獣医で緊張して急逝する子も多いのが猫だ。

水無月は神経質なのだ。

獣医は連れて行けない。

たくさんの色々な動物を診て来た獣医より

10年以上も水無月を見てきた飼い主の目を信じている。

獣医は手助けしてくださる良きパートナーだ。

水無月の生きる力を増やすのは飼い主の責任だと思う。

どうか、秋の風が吹くまで傍にいて欲しい。

何匹いても、水無月は1匹だ。

かわりなんて存在しない。

貴方と同じ。

どの命も、たった一つで



けれど、必ず終わりが来る。

諦めないで欲しい。

生きていて欲しいと私は願ってやまない。

## 三番目の猫

<http://p.booklog.jp/book/35545>

著者：猫屋雑猫

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/nekoyazathuneko/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/35545>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/35545>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.